

第 51 回 日本インドネシア学会大会 発表要旨集

Kumpulan Abstrak Makalah Simposium Ke-51 Himpunan Peneliti Indonesia Seluruh Jepang

2020 年 11 月 7 日 (土曜日)
Sabtu, 7 November 2020

自由発表 01

■ インドネシア語の最上級について (Tingkat Superlatif dalam Bahasa Indonesia)

佐近 優太 (東京外国語大学大学院博士後期課程)

インドネシア語は最上級を形成する手段として *paling* と接頭辞 *ter-* という二つの形式を持つ。両者について、*paling* は形容詞に関して基本的に共起制限を持たないが、接頭辞 *ter-* は一部の例外を除き二音節以下の語根にのみ接続するという形式的差異が存在する (Sneddon et al. 2010; Alwi et al. 2007)。しかし意味・機能面について考察した先行研究は少ない。そこで本発表では、Leipzig Corpora Collection 内のそれぞれ 30 万文からなる 3 つのサブコーパスデータを基に、意味面における形容詞と *paling*・接頭辞 *ter-* との関係性及び、両形式の意味・機能の差を統計手法を用いつつ定量的に調査することを目的とした。結果として (i) 同じ種類の形容詞は同じ最上級形式と結びつきやすいこと、(ii) 多くの形容詞において *paling* と接頭辞 *ter-* は異なるコロケーションを持つことの二点を報告する。

自由発表 02

■ Imbuhan 'meN-kan' Sebagai Pembentuk Alternasi Kausatif (インドネシア語の自他交替について)

Diess Alwi Tutiarta (南山大学大学院)

Pada penelitian terdahulu, disebutkan bahwa imbuhan meN-kan memiliki makna kausatif, serta aplikatif seperti benefaktif, instrumen, dan lokatif. Makna tersebut muncul dari berbagai macam kata dasar yang menempel pada imbuhan meN-kan. Pada penelitian kali ini, penulis akan mencoba menjabarkan imbuhan meN-kan yang menempel pada kata kerja intransitif yang menyatakan perubahan keadaan. Pada kata kerja intransitif seperti ini, imbuhan meN-kan memperlihatkan alternasi kausatif. Dalam alternasi kausatifnya, imbuhan meN-kan akan mempengaruhi jumlah argumen serta struktur dari argumen tersebut. Penelitian ini akan menyertakan data yang diambil dari Kamus Besar Bahasa Indonesia (KBBI) serta Corpus Bahasa Indonesia, Corpora Collection Leipzig University.

自由発表 03

■ 中部ジャワにおける今日の人称代名詞と呼びかけ語 (Personal pronouns and addressing forms in current Central Java)

三宅 良美 (秋田大学)

ジャワにおいて、親族内の呼びかけ表現がテクノニミー (相対年齢がもっとも若い子供の視点に基づいている) 的であることはかねてから報告されていた (Geertz, C. 1960, Geertz, H. 1961)。

このようなジャワ語の呼びかけ語は、ジャワにおける口語インドネシア語にも拡大している (Lestari 2020)。 *Romo, bapak, ibu, mbak* などはその例である。また、これらの呼びかけ表現は、二人称として使用されることが多い。本論においては、ジョグジャカルタ市内および中部ジャワにおける言語調査に基づいて、ポライトネスとの関係とジャワ語とインドネシア語とのミキシングに言及しつつ、人稱と呼びかけ表現を論じる。

また、 *bro, maestro*、といった、男性に対する新しい呼びかけ表現が生産されている状況を報告し、それがどのようなコンテキストでなされるのか、また、これをインドネシア語話者たちはどのように評価するのか考える。

自由発表 04

■ **Kondisi Layanan Halal di Jepang dan Tantangannya – dari Studi Kasus Restoran “Kiwamiya” –**

(日本におけるハラール対応の現状と課題—レストラン「極味や」を事例に—)

大形 里美 (九州国際大学)

滞日・訪日ムスリム増加を背景に日本のフードビジネス業界においてもハラール対応への取り組みがますます求められている。本発表では、福岡でハラール対応を開始したレストラン「極味や」を事例に、日本におけるハラール対応の現状と課題を考察する。日本においても近年、ハラール・メニューを提供する飲食店が大都市圏を中心に見られるようになってきている。しかしながら、非ムスリムのハラールコンサルタントらは厳しすぎる基準を飲食店側に指導しがちで、割高なハラール食材の費用とハラール認証取得費用に加え、厳しすぎる基準を満たすための高額な投資と高額なコンサルタント料が飲食店側の大きな負担となり、ハラール対応が普及しない原因となっている。福岡 Masjid からハラールメニューに対してハラール認証を取得したレストラン「極味や」によるハラール対応の取り組みは、ムスリムが極端に少ない日本社会におけるハラール対応の好事例といえる。

自由発表 05

■ **Pengajaran Penjodoh Bilangan Berasaskan Data Korpus Digital**

(デジタルコーパスデータに基づく助数詞の教育)

Prof. Madya Dr. Norliza Jamaluddin
(Universiti Pendidikan Sultan Idris, Malaysia)

Dalam era teknologi digital, penggunaan komputer dalam pengajaran semakin meningkat. Minat yang ditunjukkan oleh pengajar bahasa dalam menggunakan teknologi selaras dengan kepesatan teknologi ini. Dalam pengajaran bahasa, khususnya tatabahasa, data korpus digital kerap kali dijadikan bahan pengajaran bagi membolehkan pelajar meneliti bentuk sebenar bahasa bagi mengetahui perilaku dan struktur sesuatu bahasa. Bagi Bahasa Melayu, dalam mempelajari frasa nama, penutur

asing kerap kali berhadapan dengan masalah penjumlahan bilangan. Hal ini disebabkan penjumlahan bilangan merupakan kata yang menjelaskan bentuk kata nama yang sesuai digunakan dengan sesuatu kata nama. Disebabkan kata nama memiliki pelbagai bentuk, maka dalam bahasa Melayu terdapat lebih daripada 50 penjumlahan bilangan. Bagi menjelaskan penjumlahan bilangan ini, maka data korpus dapat memaparkan contoh penggunaan yang sebenar. Menerusi data korpus, baris-baris konkordans dapat memaparkan ratusan malah ribuan contoh kehadiran penjumlahan bilangan dengan kata nama bagi membantu untuk meningkatkan kefahaman penutur asing terhadap bahasa Melayu.

自由発表 06

- 東ジャワ海外出稼ぎ村におけるジェンダー関係の変容：「労働」と「お金」の関係を中心に
(**Changing Notions of Women's Work and Money: Rural East Java in the Era of International Migration**)

南家 三津子

本発表では、東ジャワ、トゥルンアグンの海外出稼ぎ村を事例に、女性の従事する「労働」と、報酬として得られる「お金」との関係の変化が、ジェンダー関係に与える影響を考察する。当初の海外出稼ぎ労働者の大半は女性であったため、インドネシア語のよく知られた慣用句である “Suami sebagai Pencari Nafkah (一家の稼ぎ頭としての夫)” という社会通念とは明らかに矛盾する現象が生まれた。伝統的にジャワの女性は、田畑や市場での労働に従事してきたが、その労働が目立った金銭的報酬として現れることはなかった。しかし1980年代後半に始まった海外出稼ぎ労働者の送り出しは状況を一変させた。わずか2、3年の海外出稼ぎ労働であっても、村では一生をかけても難しいレンガ作りの家の建設が可能となる。海外出稼ぎ労働の女性の稼ぐ「お金」は、そんな状況でジェンダー関係のどの部分を揺るがし、村落社会がどのように変化するのかを考えたい。

自由発表 07

■ カリマンタンの「無力」な祭司王に関する一考察 (A Study on a "Powerless" king in Kalimantan)

西島 薫（京都大学学際融合教育研究推進センター）

本発表の目的は、西部カリマンタンのウルアイ王（Raja Ulu Ai'）と呼ばれるダヤック人祭司王を事例として、「無力」な王権を成り立たせている要素を明らかにすることである。ウルアイ王は「世界」を支えるとされる神器を管理しているものの、政治経済的には無力な王である。本発表では、第一に、スマトラ、ジャワ、カリマンタンにおける王権の起源神話との比較から、王たちが無力化されると同時に神聖視される論理を明らかにする。本発表では、第二に、ウルアイ王の管理する神器がジャワやバリなどの王権にみられる「世界軸（axis mundi）」としての役割を果たしていること、そして、ウルアイ王権が「インド化」の影響を受けた王権の一つである可能性を指摘する。本発表では、第三に、東南アジア地域における「無力」な王に関する比較研究の展望を示す。